

産婦人科領域の感染症に対するloracarbefの臨床効果

坂倉啓一・岩田嘉行

川崎市立川崎病院産婦人科*

Loracarbefを産婦人科感染症の症例に対し、1回200mg、1日3回、5～14日間投与し次の結果を得た。

1) 子宮付属器炎2例、バルトリン腺膿瘍4例、感染性粉瘤1例に対する臨床的効果は全て有効であった。

2) 細菌学的効果では4例に菌が検出され、全例において菌が消失した。

本剤に起因する自他覚的副作用はなく、臨床検査値異常は認められなかった。

Key words : loracarbef, カルバセフェム系抗生物質, 産婦人科領域感染症

Loracarbef(LCBF)は協和醸酵工業株式会社で開発された、経口用カルバセフェム系抗菌剤である¹⁾。本剤は経口投与後、主に腸管より吸収され、高い血中濃度を示す²⁾。

今回、LCBFの産婦人科領域における臨床的検討を行う機会を得たのでここに報告する。

対象は平成3年4月より平成3年12月までの間に川崎市立川崎病院産婦人科を受診した産婦人科感染症患者7名で、その内訳は、子宮付属器炎2例、バルトリン腺膿瘍4例および、外陰部感染性粉瘤1例であった。

LCBF、1回200mgを1日3回、5～14日間食後経口投与し、計3000mg～8400mgを使用した。

細菌学的効果は、起炎菌の消長から消失、減少、不変、菌交代または判定不能に判定した。臨床効果は、

自他覚症状の消長、臨床検査成績の推移から総合的に判定し、主要自他覚症状、検査所見が3日以内に著しく改善し治癒した場合を著効、症状が3日以内に改善の傾向を示し、その後治癒した場合を有効、症状が3日経過しても改善されない場合は無効とした。

なお、切開、穿刺などの外科的処置を併用した場合は著効とせず、すべて有効と判定した。

Table 1に症例の一覧を示した。

子宮付属器炎(卵管炎)の2例は、自他覚症状および臨床検査値の改善により有効とした。バルトリン腺膿瘍の4例は全例有効であり、そのうち2例は臨床所見において著明改善を認めたが穿刺を行ったため有効と判定した。感染性粉瘤の1例は有効であった。

本剤使用前に検体が採取、菌が検出できたのは、バ

Table 1. Clinical effect of loracarbef

Case no.	Age (yr)	BW (kg)	Diagnosis	Dose		Isolated organism (MIC, 10 ⁶ cells/ml)	Bacteriological effect	Clinical effect	Side effects
				daily dose (mg × times)	duration (days)				
1	55	61	adnexitis	200 × 3	14	ND	unknown	good	—
2	38	54	adnexitis	200 × 3	7	ND	unknown	good	—
3	49	53	Bartholin's abscess	200 × 3	7	<i>E. coli</i> (0.39)	eradicated	good	—
4	34	62	Bartholin's abscess	200 × 3	5	(—)	unknown	good	—
5	31	48	Bartholin's abscess	200 × 3	5	<i>Micrococcus</i> sp.	eradicated	good	—
6	50	52.3	Bartholin's abscess	200 × 3	7	<i>E. coli</i> (0.39)	eradicated	good	—
7	22	49	inflammatory atheroma	200 × 3	7	<i>S. epidermidis</i> (0.20) <i>Bacteroides</i> sp. (100)	eradicated	good	—

ND: not done

Table 2. Clinical laboratory findings of loracarbef treatment

Case no.	RBC (10 ⁴ /mm ³)		Hb (g/dl)		Ht (%)		Platelet (10 ⁴ /mm ³)		WBC (/mm ³)			CRP (mg/dl)			ESR (mm/h)		
	B	A	B	A	B	A	B	A	B	D	A	B	D	A	B	D	A
1	424	403	12.9	12.3	37.0	35.8	21.8	29.2	11700	6000	6400	9.11	1.57	<0.25	60	30	19
2	396	439	11.1	12.2	33.1	36.2	24.9	29.5	8700	ND	6200	7.77	ND	<0.25	24	ND	15
3	372	360	12.7	12.0	35.9	35.3	17.2	20.2	9700	8900	7900	2.25	1.92	0.55	10	75	43
4	406	415	12.5	13.0	36.1	36.8	20.1	28.5	6200	ND	5600	<0.25	ND	<0.25	6	ND	6
5	386	404	11.8	12.8	34.6	36.3	20.9	23.6	7800	4500	4800	<0.25	<0.25	<0.25	14	12	10
6	436	397	15.5	14.4	45.0	40.7	14.5	15.1	8200	4400	5100	0.92	<0.25	<0.25	24	20	18
7	415	415	13.1	13.4	39.5	39.0	23.0	23.8	6100	6100	6400	<0.25	<0.25	<0.25	8	8	8

B: before D:during A: after ND: not done

ルトリン腺膿瘍3例, 感染性粉瘤1例であった。検体からは, *Staphylococcus epidermidis* 1株, *Escherichia coli* 2株, *Bacteroides* sp. 1株, *Micrococcus* sp. 1株の4種の菌が検出された。

使用後は, 感染性粉瘤の症例では検体採取不能となり, またバルトリン腺膿瘍では, *E. coli* 2株および *Micrococcus* sp. 1株の全株消失した。

投与を中止させるような臨床上の副作用は1例もみられなかった。

投与前, 中, 後に末梢血, 血沈, CRP検査を施行した(Table 2)。末梢血, 血沈, CRPについて異常値の正常化がみられた。血液検査で, 投与後, 異常化する症例はなかった。

産婦人科領域における細菌感染症の場合, 各種の菌が分離され, 混合感染も多数みられる。そのため外来での治療に際して, 第一次選択薬として広い抗菌スペクトルを持つ経口抗生物質が必要となる。

本剤は, グラム陽性菌およびグラム陰性菌に対して幅広い抗菌スペクトルを有し³⁾, 経口吸収性も良好で

ある。これらの特徴から, 本剤は産婦人科領域の経口剤適応の軽~中等度の感染症に対して有用な抗菌剤となることが期待される。

今回, 我々が行った結果からも, 1回200mg, 1日3回の投与で産婦人科領域の感染症に対して満足な結果が得られる薬剤と考えられる。

文 献

- 1) Matsukuma I, Yoshiye S, Mochida K, Hashimoto Y, Sato K, Okachi R and Hirata T: Synthesis and biological evaluation of 3-chloro-1-carbacephem compounds. *Chem Pharm Bull* 37: 1239~1244, 1989
- 2) 大森弘之, 原 耕平: 第40回日本化学療法学会西日本支部総会, 新薬シンポジウム。KT3777, 岡山, 1992
- 3) Sato K, Okachi R, Matsukuma I, Mochida K and Hirata T: *In vitro* and *in vivo* antibacterial activity of KT3777, a new orally active carbacephem. *J Antibiotics* 42: 1844~1853, 1989

Clinical evaluation of loracarbef for tocogynecological infections

Keiichi Sakakura and Yoshiyuki Iwata

Department of Obstetrics and Gynecology, Kawasaki Municipal Hospital

12-1, Shinkawa-dori, Kawasaki-ku, Kawasaki 210, Japan

Loracarbef was administered to 7 patients with tocogynecological infections at a unit dose of 200 mg, three times a day, for 5~14 days.

The following results were obtained.

- 1) LCBF was effective in all 7 cases, including 2 of adnexitis, 4 of Bartholin's abscess and one of inflammatory atheroma.
- 2) Evaluation of bacteriological efficacy: Bacteria were detected in 4 cases and they were eliminated in all cases.
- 3) Neither side effects nor abnormal laboratory findings were observed.